

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス・ボラリス			
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年3月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数)	18人
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年3月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	回答頂いた全保護者が『事業所の支援に満足していますか?』の問いに対し『はい』を選択している。(※クラウドソフトHUGを使用し、無記名投票での結果)	放課後等デイサービスは、組織型のサービスである。よい組織は個々の能力アップだけでは構築されない。『WILLCAREの存在を通じて、関わるすべての人をHAPPYにする!』という経営理念の浸透をはかり、スタッフ全員が共通のゴールに向かって団結するために、組織力アップにつながる研修や取り組みに沢山の時間をとっている。もちろん、個々のスキルアップも重視している。デイサービススタッフは全員が行動援護従事者研修修了者である。また、実務経験に応じたチャレンジ可能資格へのトライも全スタッフが積極的に行っている。さらには、過去5年の間に心理学の習得に向け大学に入学したスタッフが3名にのぼるなど、経営理念やMVVの実現に向けて各スタッフが様々なチャレンジを実施している。自信を持つ個々が、仲間を信頼し、助け合い、結果的に最高の組織となっている。この土台のもとに提供する取り組みだからこそ、利用者さまに喜んで頂けていることと信じ、そのようなカルチャー作りを意識的に行っている。	スタッフ全員が児童発達支援管理責任者となれる様に、キャリアアップシステムを構築する。
2	回答頂いた全保護者が『こどもは安心感をもって通所していますか?』の問いに対し『はい』を選択している。(※クラウドソフトHUGを使用し、無記名投票での結果)		会議の質をもっともっとあげていく。
3	全スタッフが『適切な支援の提供ができている』にかかるすべての問いに対し『はい』を選択している。		越えるべきは昨日までの自分であると個々が認識し、引き続きより良い療育の実現に向けて啓発を忘れない。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一定数の保護者様から、放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他のこどもと活動する機会が創出されていると感じられていない点。	1, 2, 3すべてに共通する事項が、放課後等デイサービスの核となる部分(療育)ではなく、事業所としての付加価値的な側面だと考える。1については、法人の責務として、児童への安全配慮義務履行の観点から、想定される問題がクリアされていない中での実施は難しいと考えます。2については、専門家を迎えるための研修会等は実施しているため、実行面ではなく、周知の面で課題があると考えます。3については、今後、保護者の意見を踏まえながら実施を検討していく。	保護者によっても個々に思いが異なる事案であるため、保護者の意向を踏まえて検討していく。
2	一定数の保護者様から、家族に対して家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていると感じられていない点。	これらの課題は、保護者によって積極的な方と消極的な方が混在する案件であるため、実施においても慎重に行っていく必要性を強く感じています。面談などを通じて、保護者の意見を吸い上げ、コンセンサスを醸成していきながらすすめていきます。	SNS等を今まで以上に利用して、しっかりと情報提供していく。
3	一定数の保護者様から、父母の会の活動支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられていると感じられていない点。		保護者によっても個々に思いが異なる事案であるため、保護者の意向を踏まえて検討していく。